

▶執筆 人権教育課 (市役所内線 4012)

「人権講演会」といえば…

人権講演会といえば、毎年8月に市内各地区で開催される「人権文化をすすめる市民運動」推進強調月間講演会を思い浮かべる方も多いのではないのでしょうか。

令和元年には月間講演会に地区を越えて参加していただけるように「講演会めぐり」の企画が行われました。参加者にはスタンプカードが配布され、講演会ごとに参加スタンプが押されるというもので、3カ所以上参加した方には、記念品が贈呈されました。

私自身も参加者として「様々な人権課題を巡る旅」をイメージながら、8地区の講演会のうち7会場を巡りました。旅をするのと同じように、それぞれの講演会では、これまで知らなかった考え方やさまざまな人々に触れ、新たな気付きを得ることができると、とても有意義な機会となりました。

しかし、その翌年から新型コロナウイルス感



染症の影響で、地区別の講演会は2年間中止になりました。当時のスタンプカードと記念品の人権啓発冊子は、私にとってより思い出深いものとなり、今でも大切に手元に置いています。

地区別の講演会が再開されて、今年で5年目を迎えます。地区ごとにテーマを変え、多様な学びができるよう計画しており、多くの市民の皆さんに参加いただいています。オンライン配信でも講演を聴くことができるようになり、より参加しやすくなりました。

今年の推進強調月間には、市内各地区で7回の講演会を予定しています。スタンプカードの配布はありませんが、関心のあるテーマや講師をチェックしながら、旅に出るような気分で人権講演会に参加してはいかがでしょうか。

ふるさとの魅力再発見ーにしわき歴史探訪

童子山公園 (西脇)



実相寺裏山から撮影した童子山公園



おしげ池と童子山 (大正3年頃) (播州鉄道株式会社の絵葉書より)



▼問合せ 郷土資料館 (☎23-5992)
童子山公園は、西脇区の小高い山にある公園で明治43年に整備されました。大正2年に播州鉄道が西脇駅まで敷設されたこともあり、公園開設後も整備が一段と進みました。現在のグラウンドの位置にあった「おしげ池」にかかる橋が「観月橋」と命名され、動物園には猿が飼育されていました。その後、池は埋め立てられ、昭和13年に豊川稲荷神社の南側、現在のドウジアムのある場所に「西脇町役場」が建てられ、池跡には、県立西脇工業学校(西脇高校・西脇工業高校の前身)が昭和15年に設置されました。公園周辺の施設は様変わりしましたが、現在でも変わらず市民の憩いの場となっています。

市長からの手紙

ー西脇を元気に!!ー

150



色鮮やかな播州織の生地が並ぶの中、掘り出し物探しを楽しみます

まちを彩る市民の力
5月31日、播州織産地博覧会「播博」が開催されました。市民有志によって始まったこのイベントは、今回で7回目を迎えました。過去最多の36店舗が出店し、来場者も過去最高の1万8千人となりました。道を歩く際に人とぶつかりそうになるほどのにぎわいの中、生地をはじめ、魅力あふれる品々が並び、播州織の魅力を存分に感じられる一日となりました。さらに今年は前夜祭も開催され、関東や九州、沖縄など遠



西脇市長 片山 三

方から前泊して来られた方もいらつしやいました。購入された生地をキャリアバッグいっぱい詰めて持ち帰られる姿を見て、播州織への熱い思いが伝わり、私も心が温かくなりました。また、同じ日に杉原川の河川敷で、市民有志による「わいわいまちなか青空マルシェ」も開催されました。まちへの愛着を育む機会として始まったイベントで、こちらも多くの方のにぎわいました。このように、市民の皆さんが先頭に立ち、全国から多くの方が訪れる素晴らしい催しを企画・運営してくださいって、心からうれしく思います。今後もこうした取り組みを通じて、より多くの方に西脇市を知っていただくとともに、市民有志の輪がさらに広がっていくことを期待しています。皆さんで力を合わせて、「元気なまち西脇市」を創ってまいります。

みんなでまちづくりー市民の皆さんのまちづくり活動ー

明日に向けて、手をつなごう

～よいとちがうか日野の里推進委員会の紹介～

よいとちがうか日野の里推進委員会は、日野地区を安全で暮らしやすく住みよいと感じてもらえるよう、日々まちづくり活動に取り組んでいます。

地域住民の絆を深める「日野の里ふれあいフェスティバル」の開催や地区のシンボルである「地蔵一本桜」の保全活動、ヨガ教室の開催など、幅広い活動に取り組んでいます。7月25日(土)には、日野小学校で日野地区の夏の風物詩「大納涼祭・夏」を開催します。住民参加型のステージイベントや大抽選会、屋台の出店などがあります。夏の疲れを吹き飛ばし、気分転換できる機会として、ぜひご参加ください。



西脇の自然 628

カイツブリ

かいつぶり科



小型の水鳥で、茶色のあまり目立たない姿をしています。体に比べて足は太く短く、足指の間にはアヒルのような水かきがあり、水の中を移動する際に力を発揮します。

普段は川や池などで水の中に潜って小魚や水生昆虫などを捕まえて生活しており、渡り鳥ではないので、通年見ることができます。

繁殖期には水の動きが少ない池に移動し、水草の茎や葉を集めて浮巣を作り、産卵します。卵は約20日でふ化し、夫婦で子育てをします。浮巣ではひなが親鳥から小魚をもらい、羽の間から顔をのぞかせたり、背中に乗ったりする姿が見られます。双眼鏡で観察していても、ひなのかわいい行動はいつまでも見飽きることはありません。

【西脇市動植物生態調査研究グループ】